

日中両国の周囲への感謝を忘れず 20 年

コロナ禍はチャンス 今だからこそできることを模索

ハヤシ・トレーディング・カンパニー社長 林梅香

ハヤシ・トレーディング・カンパニー(名古屋市中区)は今年で設立20周年。現在、貿易商社及び生産メーカーとして、大手寝具メーカー製品のOEMを中国・杭州の工場での生産と輸入販売を中心に行っている。激変する貿易環境の中、社長の林梅香さんは繰り返す困難にも、日中の幅広い人脈を活かして進み続け、日本と中国との架け橋にと長年尽力、名古屋中国春節祭では女性初の委員長を務めている。

「会社設立20周年を迎えられたことは、長い年月、頑張ってきて、周囲や中国の皆さんや中国政府の信頼があったからこそです」と林さんは周囲への感謝を何度も口にした。

コロナ禍にあっても中国・杭州の工場での寝具(大手寝具メーカーのOEM)の生産は順調に続いていた。同社が企画した新商品も好評だ。同工場での生産と販売が、ハヤシ・トレーディング・カンパニーの事業の柱だ。中国との行き来ができないため、3000㎡ある工場内の25か所にカメラを設置、オンラインで日本とつなぎ、工場の様子をリアルタイムで名古屋の本社内で見えて工場管理を行っている。

オンラインで映された映像を見ると、中国・杭州の工場内は清潔で整理整頓がしっかりとされており、従業員がてきぱきと働いていた。「中国の工場ですが、日本の経営方針で進めています。工場管理は厳しく、消毒も徹底され、トイレも常にきれいです。これも私と従業員の信頼の上にてできていることです。ある程度教育すれば、働き方は日本人と変わらないのです」と語る。

「私と従業員のつながりや信頼感が強いからこそ中国の工場がうまく行っているのだと思います。工場に私が日本から赴くと『お母さんが帰ってきた』と皆に歓迎されます。中国人経営者は自分中心の人が多いのですが、私はそうではありませんので、いつも工場の皆様と力を合わせて頑張っています」と林さん。



従業員が正月に帰省する際には、正月に食品やお酒等を持たせるなど、心配りを欠かさない。「心と心が通じれば。そのためには相手を観察し、心を読み取りながら中国の従業員とも接しています」と話す。工場で働く人の給料は中国国内と変わらないが、社長と従業員の信頼感があるからこそ、日本の経営方針で仕事の方法が受け入れられ、工場はうまくまわっているという。

少し前まで、中国との仕事はトラブルが少なくなかったが、林さんはどうやって中国と日本の考え方を知り、仕事を広げていったのか。それは林社長の半生に関係してくる。

日本人と台湾人の両親を持ち名古屋市で育った林さんは、実父の仕事を認めた中国政府に国策で招かれ、7歳の時に家族で移住した。しかし文化大革命で父親が職を追われて大変な苦労